令和６年2月１日（木）
令和５年度 東京都発達障害者支援地域協議会

資料８

令和５年度
東京都成人期発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業　活動報告

①専門人材育成・実地研修
②情報収集・提供
③ネットワーク構築・運営

R5年度_NW事業_①専門人材育成・実地研修

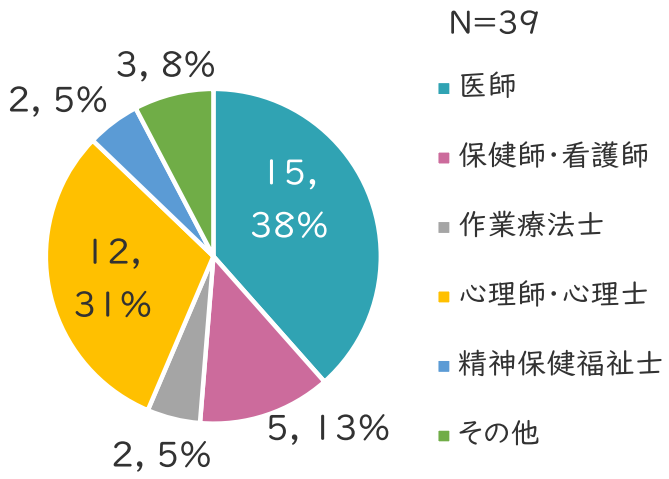
成人期発達障害の診療・支援に関する専門的知識に関する講義

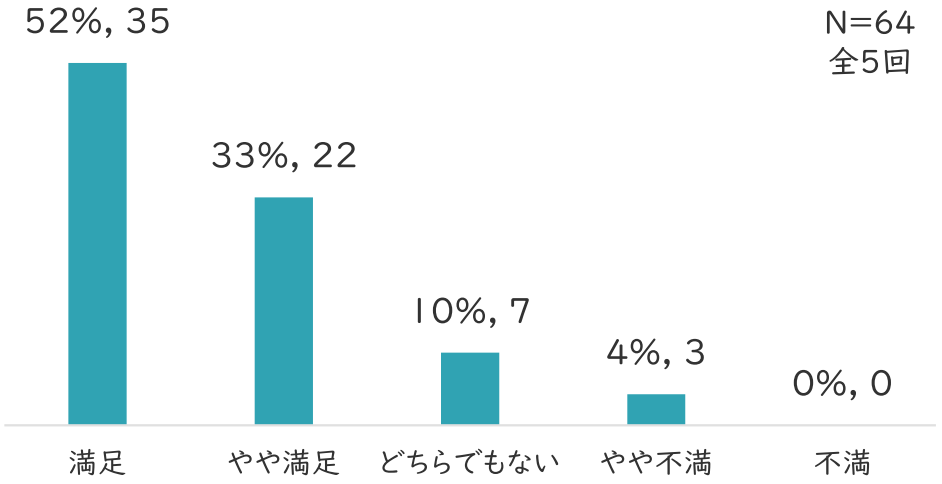
開催日	内容	講師　敬称略	参加総数
9月4日(月) ～9月30日(土)	発達障害診療における鑑別・対応のポイント	根本 真希代 (小石川東京病院 うさぎ外来・医師)	62回 閲覧
9月24日(日)	発達障害支援の実際～作業療法士の視点	梶原 利彦 （琉球リハビリテーション学院・作業療法士）	19機関 25名
	発達障害専門外来陪席を通して見えてきたもの	南學 正仁 （国立精神・神経医療センター病院・医師） 相澤 里佳 （多摩総合医療センター専攻医）	
10月29日(日)	成人発達障害の借金・相続・後見人、労働問題	伊藤 克之 （日野アビリティ法律事務所・弁護士）	22機関 27名
	ASD男性とパートナー	満山 かおる （小石川東京病院 臨床心理士）	
11月23日(祝)	成人発達障害の診療について	丹治 和世 (小石川東京病院 発達障害専門外来・医師)	22機関 29名
	ASDにおける自己と他者	中野 珠実 (大阪大学脳情報通信融合研究センター教授)	
12月10日(日)	大人の発達障害診療科	加藤 進昌 (公益財団法人神経研究所・理事長)	20機関 24名
	発達障害支援を経済的視点から捉え返す	高田 篤史 (野村総合研究所 プリンシパル)	

※第１回目は動画配信、２回目以降はハイブリッド（対面・オンライン）開催

R5年度_NW事業_①専門人材育成アンケート結果

成人期発達障害の診療・支援に関する専門的知識に関する講義





○ アンケート結果より（一部抜粋）

・ASDと統合失調症、BPDとの違いについての理解が深まった。自分が患者さんに使用してきた表現とは異なった箇所が非常に参考になった。傾聴だけでなく、聴取することの重要性を再認識できた。
・作業療法の「本当の目的」や「裏の目的」、見える化の意義を理解することができた。
・診察場面で発達障害ではない場合のケースについての対応についての学びを得た。
・裁判事例や後見人制度、発達障害者の職場での合理的配慮について理解できたことで、精神疾患全般にも応用できると感じ、医療機関の役割を改めて考えさせられた。
・ASD夫像がとてもよくイメージすることができ、症例も講義内容も興味を持って参加できた。また、改めて心理検査をどうひょうかするかを勉強できた。
・診断に関し診断基準とともに、理念型で捉え検討し、その中での様々な具体的観点から理解が深まった。ADHDとの理念型では異なることがとても参考になった。
・脳科学的な研究成果を踏まえてのASDや新しい観点からの理解、対人認知や自己認知の在り方はとても興味深かった。脳機能への理解を深め、ASD特性の理解も深めたい。
・発達障害の歴史や変遷を知るとともに、専門家や支援者が正しい知識や情報を伝えることの重要性を改めて学んだ。
・発達障害の経済的損失がおおいこと、発達障害の得意な症状を企業が注目していることを知れた。

R5年度_NW事業_①専門人材育成・実地研修

発達障害専門外来陪席

陪席医５名（４機関）
・医療法人社団翠会 陽和病院　２名（令和５年８～10月、10～12月）
・国立精神・神経医療センター病院　１名（通年）
・東京都立病院機構 多摩総合医療センター　１名（通年）
・国立大学法人 東京医科歯科大学病院　１名（１日）

発達障害専門デイケア見学

見学者6名（5機関）
・慶應義塾大学病院　１名（半日）
・飯田橋東口診療所　１名（半日×２）
・ストレスケア東京上野駅前クリニック　１名（半日×２）
・医療法人和楽会 赤坂クリニック　２名（半日×２）
・ゆうメンタルクリニック　１名（半日）

医療機関訪問助言等

４機関
・医療法人社団じうんどう 慈雲堂病院　１回
・医療法人社団心緑会 小石川メンタルクリニック　１回
・医療法人社団慈泉会 市ヶ谷ひもろぎクリニック　１回
・明神下診療所　１回

R5年度_NW事業_②情報収集・提供

	根本治療	薬物治療	心理社会的治療
ASD	研究段階	なし	カウンセリング デイケア 作業療法
ADHD		メチルフェニデート徐放剤 アトモキセチン グアンファシン塩酸塩徐放剤	

特性でうまく生活に適応できず、感じている「生きづらさ」を減らすこと　→コーピングスキル(対処法)を身につける

KYODO

発達障害外来、学会の指針逸脱　クリニックが高額治療

2023/12/16

発達障害の専門外来をうたい、東京や大阪などで展開する精神科クリニックが、日本精神神経学会が認めていない独自の見解を基に「効果が高い」と宣伝し、頭部を磁気で刺激する治療に誘導していることが16日、クリニック関係者や元患者らへの取材で分かった。患者側が治療費のために高額のローンを組むケースもあり、専門医から「不安を利用している」との批判が出ている。

この治療法は「経頭蓋磁気刺激治療（TMS）」と呼ばれる。日本精神神経学会の指針や専門家は、うつ病には一定の効果があるが、発達障害に有効との科学的根拠は乏しく、治療に用いるべきではないとしている。

クリニックは発達障害に有効だと宣伝し、カウンセリングや診察で「9割に効果がある根本治療で、効果は持続する」と強調。学会が指針で避けるよう求めている未成年にも勧めている。

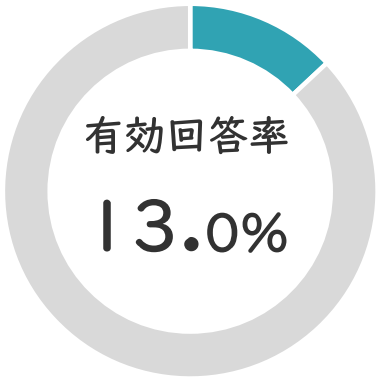
元患者らによると、初診の脳波検査で「脳に混線がある」「発達障害のグレーゾーン」などと説明。治療費を一括で支払えない場合はローンを組ませるなどし、8～48回の施術（費用は最大で計約85万円）を契約させるケースが多い。

精神科クリニックがTMS契約を結ぶまでの流れ

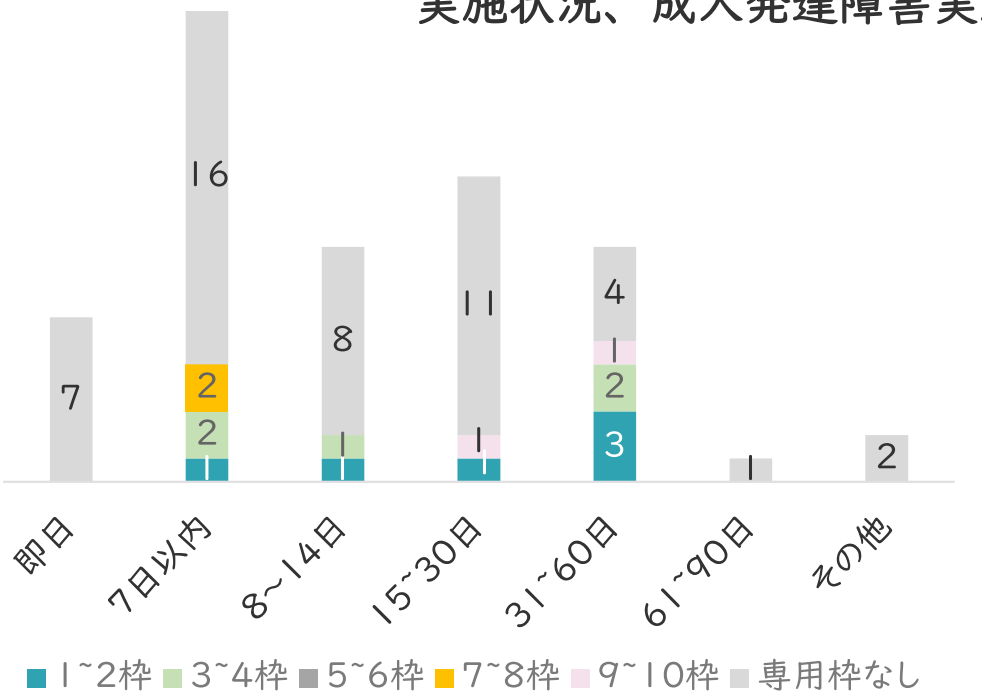
© 一般社団法人共同通信社

R5年度_NW事業_②情報収集・提供

- 「発達障害」をキーワードに抽出された５８９の医療機関にアンケート調査を実施
- Ｇｏｏｇｌｅフォームでの回答
- 期間：2023年８月１日(火)～８月３１日(木)
  ※研修申込期限との兼ね合いで期間短縮
- 内容：発達障害の診療実施有無、対象年齢、対象疾患、初診枠、待機状況、心理社会的治療実施状況、成人発達障害実施の課題



N=589,n=77

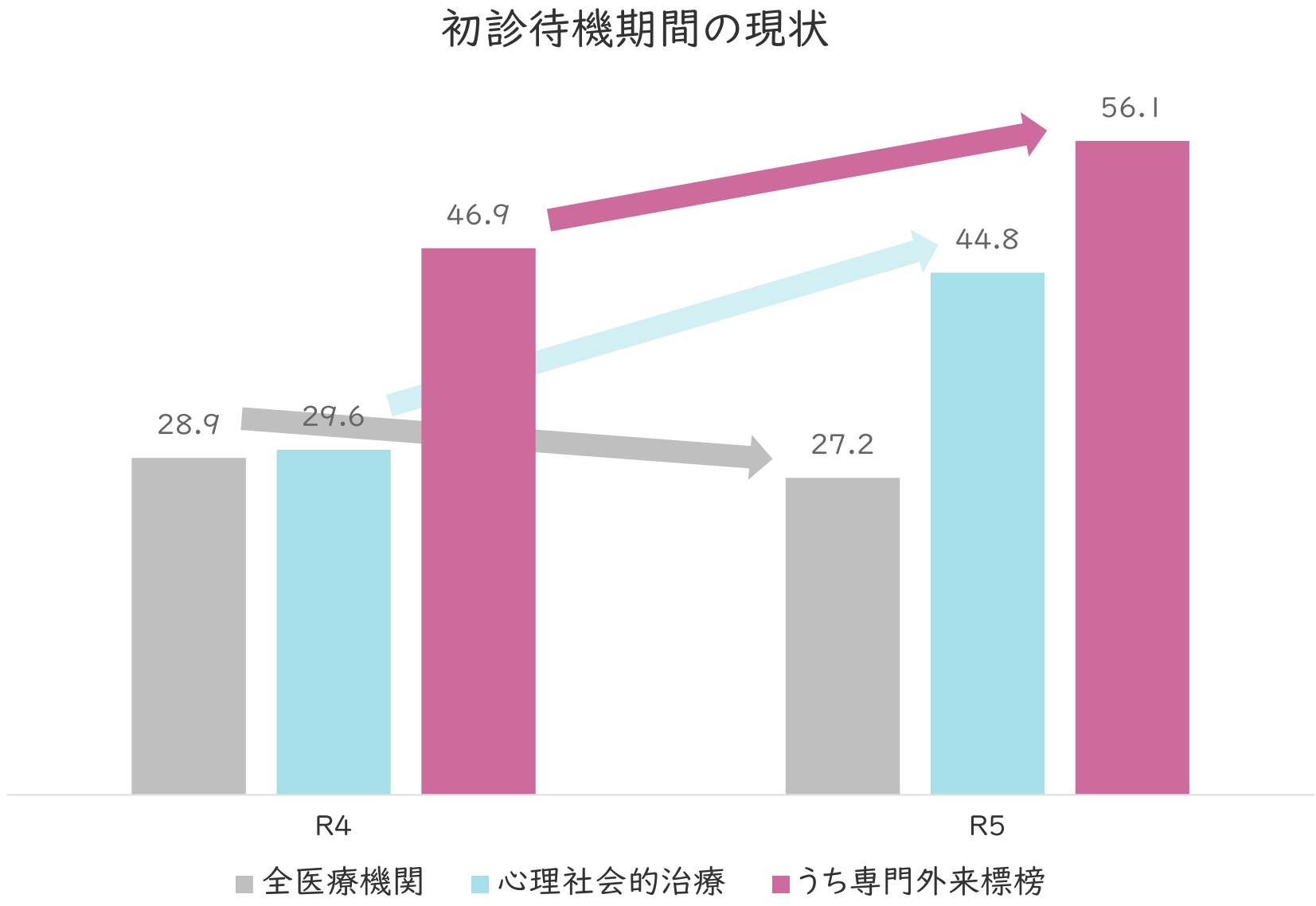


待機期間

27.2日

n=60

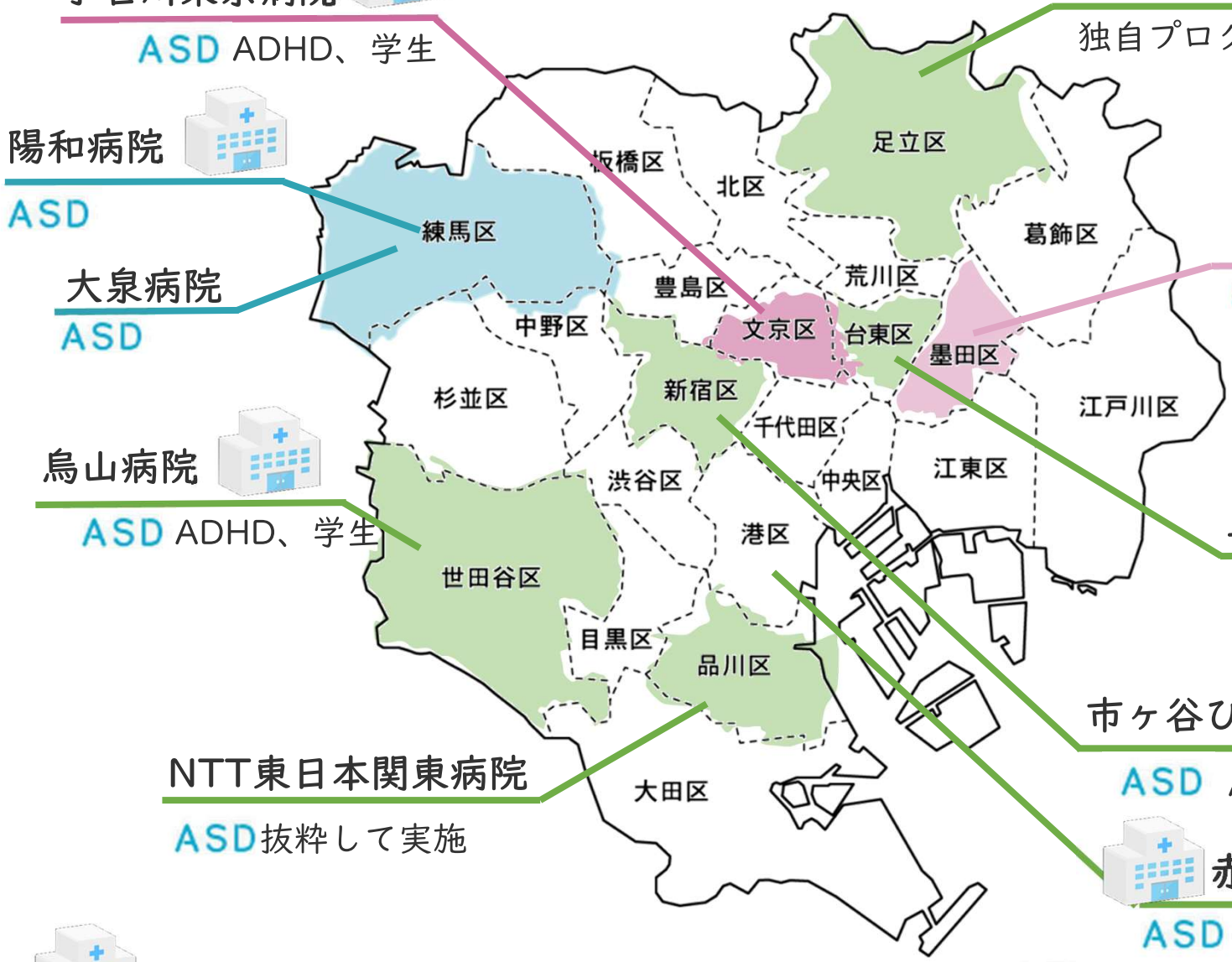
R5年度_NW事業_②情報収集・提供



新型コロナウイルスの感染症分類の変更による影響もあると考えられる

発達障害向けプログラム実施機関（23区部）

専門外来、発達障害当事者向けデイケアプログラム実施機関　※都拠点機関で把握分のみ



東京都拠点医療機関

小石川東京病院

ASD ADHD、学生

陽和病院

ASD

大泉病院

ASD

烏山病院

ASD ADHD、学生

NTT東日本関東病院

ASD抜粋して実施

まちどりクリニック

独自プログラム実施

区部拠点医療機関

錦糸町

クボタクリニック

ASD

標榜していないが、
専門医が複数名在籍

ストレスケア東京

上野駅前クリニック

思春期外来・デイケア

市ヶ谷ひもろぎクリニック

ASD　ADHD

赤坂クリニック

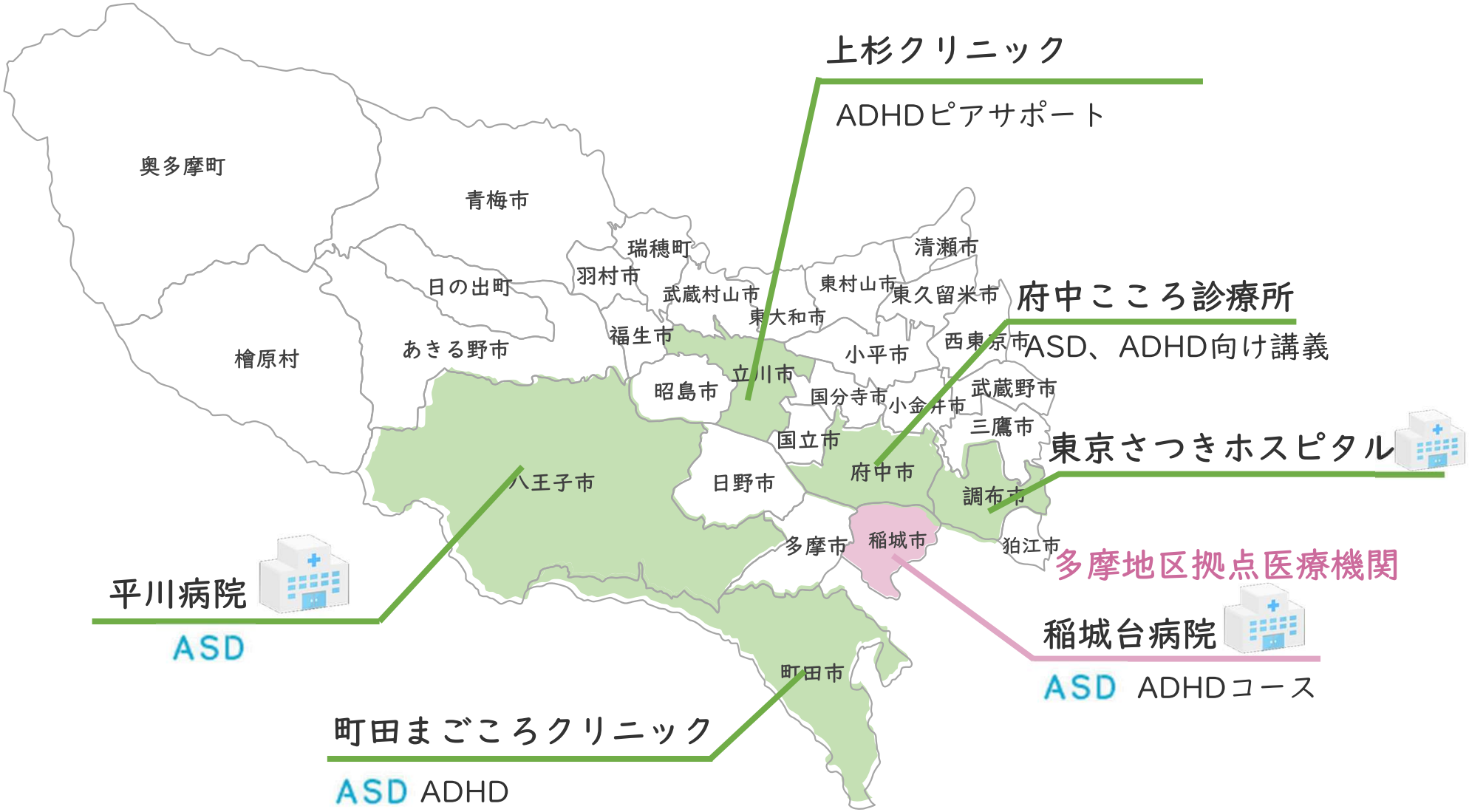
ASD

は発達障害専門外来標榜

ASDは発達障害専門プログラム実施

発達障害向けプログラム実施機関（多摩地区）

専門外来、発達障害当事者向けデイケアプログラム実施機関　※都拠点機関で把握分のみ



は発達障害専門外来標榜

ASDは発達障害専門プログラム実施

R5年度_NW事業_③ネットワーク構築・運営

診療体制検討協議会

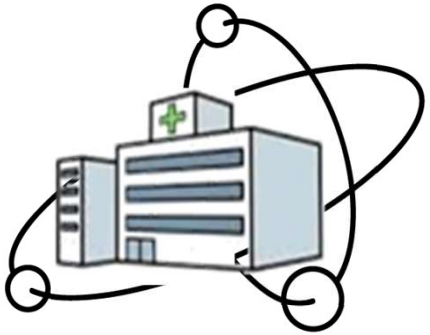
令和５年５月15日(月)　オンライン開催
・出席機関：東京都福祉保健局、公益財団法人神経研究所(都拠点)、医療法人社団草思会錦糸町クボタクリニック(区部拠点)、特定医療法人研精会稲城台病院(多摩地区拠点)、成人発達障害支援学会(オブザーバー)
・議題：令和５年度研修等実施計画、地域の成人発達障害診療・支援情報共有、福祉機関のオブザーバー参加について　等

区部圏域連絡会・研修会　主催：錦糸町クボタクリニック

・第１回圏域連絡会
・圏域研修会　令和５年12月17日(日)
「おとなTOSCA(東京都発達障害者支援センター)の活動から見えるもの～専門医療機関の視点を踏まえた成人期発達障害支援の現在～」
　講師：桑野大輔（発達障害医療コーディネーター/東京都発達障害者支援センター）
・第２回圏域連絡会　令和５年12月17日(日)

多摩地区圏域連絡会・研修会　主催：稲城台病院

・第１回圏域連絡会　令和５年７月９日(日)
・圏域研修会　令和５年11月12日(日)
「成人発達障害の臨床～日常診療における課題とその対応」
　　講師：木代眞樹先生(きしろメンタルクリニック院長)
「成人発達障害デイケアの実践」
　　講師：浦田奈穂先生、成田秀平先生（きしろメンタルクリニック）
・第２回圏域連絡会　令和５年11月12日(日)



R5年度_NW事業_中間総括

今年度の専門人材育成研修では、医師の参加者が全体の4割弱まで増加した。
また、専門外来への陪席医も通年対応をすることにより、予め都合を調整してもらうなどにより継続的な陪席が可能となった。

情報提供では、TOSCA機能とも連動し、TOSCAで受託する研修において、各地域の医療機関情報の提供や科学的根拠に乏しい医療機関への受診の非推奨などを地域の関係者や住民に対し行うことができた。
一方の情報収集では、昨年度がアンケート機関を短縮したことによる回収率の上昇がみられたことから、今回もアンケートと専門人材育成研修の案内を同時に行い期間短縮を図ったが、QRコードからの入力のみとしたことにより回収率が大幅に下がることとなった。また、国立障害者リハビリテーションセンターが同様の調査を当該調査の２ヶ月前に行っていたこともあるのか、回収率に影響があった可能性は否めない。
初診待機解消に関し、コロナ感染症の影響を受けていた数年前との単純比較ができないことから、今年度のデータを基準とし、次年度以降はKPIマネジメントの設定を適切に行い、初診待機の解消に向けた取組を具体化し、解消に向けた取組みを図れるよう努める。

ネットワーク構築・運営では、地域の圏域連絡会において多摩地区は参加機関が増えてきているものの、区部では参加機関がマンネリ化しつつあることが課題となっており、地域拠点とも情報を共有し、新たな参加機関の開拓とともに、医療だけで成人発達障害者の支援を行っているわけではないことからも、福祉機関等の関係支援機関の連絡会へのオブザーバー参加について協議していく予定とする。